

こもれ陽の径（土石流堆）

Df/Tr



Ver.1(2020/2/1)

災害伝承 DATA

所在地：長野県上伊那宮田村新田地区
緯度・経度：北緯 35 度 44 分 50.1 秒
東経 137 度 53 分 48.9 秒
伝承形式：地形
種類 / 要因：土石流 / 集中豪雨
災害発生：古代～1600 年（慶長 5 年）前後
建立時期：不明
指定等：なし
周辺地形：山麓堆積地



観光情報はこちら

言い伝え・伝説

「こもれ陽の径（こもれびのみち）」は、かつて発生した土石流の跡を見ることができます。「こもれ陽の径」沿いの小山は、古代から 1600 年代前後にかけて、太田切川で起きた土石流の石や土砂が積もってきた土石流堆だと考えられています。

周辺案内

こもれ陽の径は全長 1.7 km のコースです。林に囲まれた黒川沿いの遊歩道を歩けば、心も体もスツキリ。コース途中にはウイスキー工場、ドーナツ工場の見学やマレットゴルフを楽しむことができます。この一帯は、温泉、ジャンボ滑り台のふれあい広場、アサギマダラの里など、様々な観光スポットがあります。